



神奈川県

教育委員会

平成 30 年度 小学校・中学校における

# 手話に関する 取組事例集



平成 31 年 3 月

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課

## はじめに

手話の普及推進を通じて、県民みんながお互いを大切にし、支えあう社会を実現したい。その理想を掲げて平成 27 年 4 月 1 日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

そして、この趣旨に則って、平成 28 年度から 32 年度までの 5 年間の計画期間とする「神奈川県手話推進計画」が策定されました。

これを受け、県教育委員会では、児童・生徒の手話の学びの充実、教員向けの手話研修の充実など、手話を学ぶためのしくみづくりに取り組んでいるところです。

本事例集は、平成 30 年度（一部は平成 29 年度）に県内各学校で取り組まれた実践を、資料を提供していただいた学校の協力の基に作成しました。様々な活動をとおして取り組まれている手話の取組事例を参考に、各学校の実態に応じた手話に関する取組の充実を検討くださるようお願いいたします。

結びになりますが、手話の学習をとおして、児童・生徒がお互いを大切にすることに気づき、支えあう関係を実現できるようになること。また、そうした理想に向けた取組の積み重ねにより、一人ひとりが互いの個性を尊重し、自らの人生や社会をよりよいものにしていくことができるという実感がもてるようになることを願っております。

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課長

# 県内市町村の実践事例集 目次

## ◇小学校

### <国語科>

- ・「だれもが関わり合えるように」（横浜市立潮田小学校）・・・1

### <国語科・特別活動（学級活動）>

- ・「だれもが関わり合えるように」（山北町立三保小学校）・・・2

### <生活科>

- ・「手話体験」（綾瀬市立綾瀬小学校）・・・3

### <音楽科>

- ・「表現する楽しさをあじわおう」（横須賀市立粟田小学校）・・・4

### <音楽科・特別活動（学校行事）>

- ・「手話で思いを表現しよう！」（小田原市立富士見小学校）・・・5

### <総合的な学習の時間>

- ・「手話体験教室」（横浜市立原小学校）・・・6
- ・「手話歌ワークショップ」（川崎市立藤崎小学校）・・・7
- ・「やさしい町 下平間」（川崎市立下平間小学校）・・・8
- ・「手話体験」（川崎市立小倉小学校）・・・9
- ・「やさしい町 みやうち」（川崎市立宮内小学校）・・・10
- ・出前授業「手話体験教室」（川崎市立宮崎小学校）・・・11
- ・「みんなにやさしい町に」（川崎市立菅生小学校）・・・12
- ・「福祉体験」（相模原市立田名北小学校）・・・13
- ・「福祉」（横須賀市立公郷小学校）・・・14
- ・「手話教室」（横須賀市立北下浦小学校）・・・15
- ・「手話教室」（鎌倉市立大船小学校）・・・16
- ・「手話体験教室」（寒川町立一之宮小学校）・・・17
- ・「手話学習～みんなにやさしい町づくり」（大和市立林間小学校）・・・18
- ・「ふくし教室・手話」（海老名市立杉本小学校）・・・19
- ・「手話体験」（綾瀬市立綾瀬小学校）・・・20

- ・「ろう学校と交流しよう」（平塚市立富士見小学校）・・・21
- ・「手話について」（伊勢原市立大田小学校）・・・22
- ・「手話で歌おう『福祉体験』」（二宮町立一色小学校）・・・23
- ・「だれもが関わり合えるように」（箱根町立箱根の森小学校）・・・24

#### <特別活動（児童会活動）>

- ・音楽委員会「手話に親しもう」（川崎市立西梶ヶ谷小学校）・・・25
- ・音楽委員会「手話で歌おう、心一つに」（川崎市立西野川小学校）・・・26

#### <課外活動>

- ・「夏休みわくわく体験」（秦野市立鶴巻小学校）・・・27

## ◇中学校

#### <道徳>

- ・「手話ってすごい」（横浜市立川和中学校）・・・28

#### <総合的な学習の時間>

- ・「手話体験」（相模原市立鳥屋中学校）・・・29
- ・「聴覚障がい者の理解」（相模原市立北相中学校）・・・30
- ・「福祉体験（手話体験）」（横須賀市立久里浜中学校）・・・31
- ・「福祉体験学習 手話」（藤沢市立湘洋中学校）・・・32
- ・「福祉体験学習 手話教室」（開成町立文命中学校）・・・33

#### <特別活動（学級活動・生徒会活動）>

- ・福祉厚生委員会：福祉体験「手話講座」（横浜市立笹下中学校）・・・34
- ・福祉委員会「できることを『今』やろう」（川崎市立南大師中学校）・・・35
- ・「人権福祉講演会」（相模原市立内郷中学校）・・・36
- ・福祉講話「手話」（大和市立光丘中学校）・・・37

#### <部活動>

- ・合唱部（藤沢市立湘洋中学校）・・・38

#### <課外活動>

- ・「地域ふれあい講座」（茅ヶ崎市立松浪中学校）・・・39



**単元（題材）目標**

- 関心のあることなどから話題を決め、必要なことを調べて要点をメモすることができる。
- 相手や目標に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、話し方の工夫を考えて話すことができる。
- 話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりすることができる。

**(1) 実施時期**

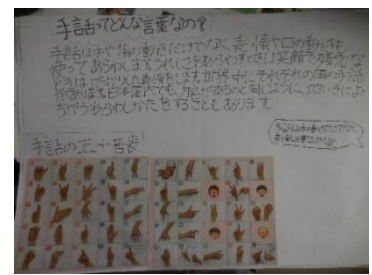
10月実施

**(2) 対象（学年等・人数）**

第4学年 110名

**(3) 指導者（教諭・外部講師等）**

第4学年担任 3名 国際教室担当 1名 図書館司書 1名



**(4) 実施内容**

- ①単元のめあてやポスターセッション形式で発表することを確認。
- ②資料「手と心で読む」を読み、筆者の書き方を確認。  
それぞれで学習課題を設定。「手話、点字、盲導犬、パラリンピック」
- ③～⑥図書室の本やiPadを活用して、調べ学習。写真など資料集め。
- ⑦⑧ポスターにまとめる。
- ⑨話し方、聞き方のポイントを全体で確認。各自発表練習。
- ⑩⑪発表、聞き取りメモ学習
- ⑫友達の発表を通して、考えたことを交流する。



**(5) 成果**

〈子どもの学び〉

- 手話に興味をもち、自分の名前や簡単なあいさつができるようになった。
- 手話の学習を通して、口で話す以外のコミュニケーションを知った。
- 手話や白杖を使う人を町で見かけ、声をかける、点字ブロックに自転車を停めないなどの自分たちにもできそうなことをやってみようという意識を高めることができた。

〈子どもの感想〉

- 手話は世界共通ではなく、日本語や英語などのように各国の言葉ということを知って驚いた。
- 指文字以外で気持ちを表す言葉を知った。
- 手話に歌があることに驚いた。もっと多くの曲を知りたいと思った。

## 国語科・特別活動（学校行事） 「だれもが関わり合えるように」

山北町立三保小学校



### 単元（題材）目標

- 国語の学習で扱った手話についての発展学習として、手話に親しむとともに、障がいのある人もない人もお互いに支え合い、活動できる社会が必要であることに気付く。

### （1）実施時期

平成31年1月29日（火）

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 2名、 幼稚園児 3名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年担任 1名

幼稚園教諭：年中担任 2名



### （4）実施内容

- ①幼小交流の一環として、集会で歌った「にじ」を手話で表現しながら園児と一緒に歌う場面を設定した。
  - ・事前に4年生が歌詞を手話で表現する方法を覚え、それを園児に教えながら一緒に歌い、手話に親しむ活動を行う。
- ② 指文字で名前を伝える。
  - ・指文字の50音表で自分と園児の名前の表し方を知り、手話で名前を伝え合う。
    - ◎図書室にある手話に関する本を学級に置き、自然と手話に触れられる環境づくりをしておいた。
    - ◎園児にはサビのわかり易い部分のみ手話を教え、楽しい雰囲気で行えるようにした。指文字は表で一音ずつ確かめながら伝えるようにした。

### （5）成果

- 手話に興味を持ち、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになった。
- 今まで触れることのなかった手話に親しむことができた。
- 手話を学ぶことにより、聴覚に障がいのある方々も互いにコミュニケーションを取ることができるということを理解することができた。

**単元（題材）目標**

○聴覚障がいのある人のために手話というコミュニケーションの方法があることを知り、簡単な挨拶や自己紹介の仕方を学び、手話に親しむ。

**（１）実施時期**

10月実施

**（２）対象（学年等・人数）**

第2学年 5クラス 157名

**（３）指導者（教諭・外部講師等）**

本校教諭：第2学年 5名

外部講師：市内ボランティアサークル 「ほほ笑みサークル」 2名

**（４）実施内容 \*全2時間**

- 「手話で自己紹介をしよう」（各学級）
  - ・講師から手話の簡単な挨拶の仕方や指文字の名前の表し方を教えてもらい、実践した。
- 「学んだ手話を発表しよう、手話で歌を歌おう」（学年全体）
  - ・学んだ自己紹介を各学級の代表者が発表した。
  - ・講師の真似をして、歌詞を手話で表しながら手話に親しむ。  
楽曲「さんぽ」「Believe」

**（５）成果**

- 聴覚障がい者の存在やその人たちの生活について身近に感じたことのない児童が多い中、手話で簡単な挨拶や自己紹介をする方法を知り、聴覚障がいのある人とのコミュニケーションの仕方を学ぶことができた。児童からは身の回りにあるものの言葉を指文字で表したり、授業開始の挨拶を手話で行ったり、意欲的に習った手話を使う姿も見られた。
- 簡単な指文字の指導や歌唱をしながら身近に手話と触れ合い、児童の発達段階や学習内容を考慮して地域のボランティアサークルを活用することができた。

## 音楽科 「表現する楽しさをあじわおう」

横須賀市立栗田小学校



### 単元（題材）目標

- 歌唱を通し手話を学び、拍の流れにのって楽しく体を動かし歌う。
- 歌詞にあった表現を考えながら楽しく歌う。

### （1）実施時期

通年

### （2）対象（学年等・人数）

特別支援学級 7名

（第1学年、第2学年、第3学年、第4学年、第6学年）

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

特別支援級担任（教諭）

### （4）実施内容

- 「さんぽ」
- 「手のひらを太陽に」
- 「世界中の子どもたちが」
  - ・体を動かし、拍の流れにのって歌う。
  - ・手話を使い、歌詞の言葉を表現する楽しさをあじわいながら歌う。
  - ・授業参観等で発表した。（写真：手のひらを太陽に）



### （5）成果〈生徒の感想などから〉

- コミュニケーションをとる手段に手話があることを知り、「○○は、手話でどうやるの？」と興味を持つようになってきた。
- 歌唱だけだと声も出せなく恥ずかしそうに歌っていた児童や怒鳴り声、大声で歌っていた児童も、手話をつけることで、歌詞にあった表情や強弱をつけて歌を歌えるようになってきた。（無表情に歌ったり、大声で歌ったりすることもなくなった）  
例：うれしい表情、悲しい表情、楽しい表情、曲想にあった歌い方
- 歌詞のもつ内容をイメージしやすくなり、よく覚えられるようになってきた。
- 手話で歌う学習を4月から続けてきたことで、手に気持ちをこめて相手に「気持ちを伝える」という表現力が、つきはじめてきた。

### （6）その他

- 今後も音楽を通して手話を学んできたことを生かし、豊かな心、表現力をのばしていきたい。



## 音楽科・特別活動（学校行事） 「手話で思いを表現しよう！」

小田原市立富士見小学校



### 単元（題材）目標

○手話をとおして、思いを豊かに表現しようとする。

### （1）実施時期

通年

### （2）対象（学年等・人数）

全学年 525名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

教諭（音楽専科・学級担任）

### （4）実施内容

#### ①音楽朝会

儀式的行事としての音楽朝会では、毎月歌を楽しんだり音楽の学習における成果を発表したりする場としている。その中でいくつかの曲は、歌詞に沿った手話を加えて歌っている。

音楽担当が、図書室に配架されている書籍（手話ソングブック）等を参考にしながら、各教室に行き、歌をとおして指導した。

#### ②音楽の学習

表現豊かな歌唱表現にすることを目的とし、手話を用いることによる歌詞への理解や身体表現につなげた。

### （5）成果

#### ①手話への理解

音楽と関連づけたことにより、手話に対しての理解を深めることができた。特に、歌詞と手話が合致することにより、より豊かな表現となることが大きかった。

手話は身体表現のためのものではないことは、予め指導はしているが、歌を歌い始めると自然に手話をしている姿は、子どもたちにとってコミュニケーションの一手段になってきているのではないかと捉えている。

#### ②全校児童での取組み

音楽朝会として位置づけることにより、全校児童が同じ場で、一堂に会して手話に取り組んだという、手話に対して共通の経験をしたことになる。この経験を生かし、どの学年も、教科等と関連していく視点をもつことにつなげることができた。

特に、国語、社会、生活、総合的な学習の時間などの学習においては、関連を強めることができた。



## 総合的な学習の時間 「手話体験教室」

横浜市立原小学校



### 単元（題材）目標

- 聴覚障がいとはどのような障がいなのかを学び、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
- 聴覚障がいの方とコミュニケーションをどのようにとればよいかを理解し、自分たちがお手伝いできることは何かを考える。また、そのことにより、いろいろな人と共に生きることの大切さを知る。

### (1) 実施時期

10月下旬

### (2) 対象（学年等・人数）

第3学年 185名 保護者 多数 \*本校では、毎年第3学年が、この学習を行っている。



### (3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 第3学年担任 6名

外部講師 瀬谷区手話サークル「さかいの会」16名、区社会福祉協議会職員2名

### (4) 実施内容

\*「手話体験教室」開催前に、家庭での取り組みとして「テレビの音を消して番組を見て、感想を書く。」宿題に取り組んだ。

#### ①サークル紹介・聞こえない人はだれ？

- ・聴覚障がいの方と健聴者の方が並び、どなたが聴覚障がいの方かを当てるクイズをする。

#### ②聴覚障がい者への理解

- ・聴覚障がいの方が日常で困ることや周りの方々にしてもらうとうれしい事、聞こえ方は人によってさまざまな事等の話を聞く。
- ・コミュニケーションのいろいろな方法を紹介していただく。

#### ③手話の講習：挨拶の手話

#### ④電車ごっこ

- ・代表児童が、実際に聴覚障がいの方と電車に乗っているつもりで活動を行う。教師も運転手、車掌役として参加する。車内放送で電車の乗り換えを案内するも、分からなくて動けない聴覚障がいの方にどのような働きかけをすればよいかを考えて実践する活動をした。

#### ⑤身振り当てゲーム

- ・クラスごとに分かれて絵カードを見ながら、身振り手振りで講師に伝える。講師は、手話や指文字で答えるゲームを行った。

### (5) 成果

- ・見た目だけでは、気が付きにくい障がいであることを理解することができた。
- ・外部講師に話を聞き、実際に聴覚障がいの方と電車ごっこや身振り当てゲームで触れ合うことができ、自分ができることは何かを考え、できる事をやってみたいなという意欲をもてた。

### (6) その他

- 土曜参観として保護者も参観・参加できた。家庭でも一緒に考えてもらうきっかけとなった。

## 総合的な学習の時間 「手話歌ワークショップ」

川崎市立藤崎小学校



### 単元（題材）目標

- 相手の立場を考えながら、様々な立場の人と進んで関わりをもつ。
- 今の自分を受け止めながら、自分にできることを大切にして、身近な人との関わりをもつ。

### （1）実施時期

11月～1月

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 児童 132名

担任 4名

支援級担任 3名



### （3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年担任 4名、支援級担任 3名

外部講師：手話歌アーティスト fucchiE（淵上卓司）さん

### （4）実施内容

#### ①総合ワークショップ・手話ブース

- ・知っている歌に手話をつけ歌ったり、昔話に手話をつけて披露したりすることで、さまざまな方と関わりをもちながら手話について知ってもらう。

#### ②手話歌ワークショップ

- ・外部講師の生き様から、自分にできることやコミュニケーションの在り方を学ぶ。

### （5）成果

- 最初は、コミュニケーションの方法のひとつとして「手話」に関心をもち、活動に取り組んだ子ども達である。外部講師との関わりを通して、一緒に手話歌を奏でる楽しさや、相手と寄り添いながら関わることの大切さを知ることができた。そこから、よりよい関わりとはどのような関わりなのか、自分がこの先、どのように人と関わるかを考えるきっかけとなった。

### （6）その他

- 授業参観で保護者にも参加してもらいながら、手話歌を一緒に奏でた。

## 総合的な学習の時間 「やさしい町 下平間」

川崎市立下平間小学校



### 単元（題材）目標

○身の周りの人に対して、その人の立場になって、思いやりの心を持ち、互いを大切にしながら、下平間の町で過ごしていけるようにする。

### （1）実施時期

9月中旬

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 75名



### （3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年担任 4名

外部講師：市内ボランティアサークル「太陽の会」8名



### （4）実施内容

#### ○前半（学年合同：多目的ルーム）

##### ①校歌を手話で歌う。

- ・昨年度、手話を付けてもらった校歌を聴いてもらう。

##### ②挨拶、自己紹介

- ・突如手話で自己紹介をしてもらったあと、手話通訳の方に同時通訳してもらう。

##### ③ロールプレイング（歩道での出来事・電車内での出来事）

- ・聴覚障がいがあると、何が困るのか、自分たちはどう関わっていけばよいか、体験しながら実感をもてるようにする。

#### ○後半（学級：各教室）

##### ①手話や関わり方の体験

- ・生活で多く使う手話で会話をする。
- ・筆談や空書も含め、実際にどう関わっていけるか学ぶ。

### （5）成果〈生徒の感想などから〉

○連合音楽会で歌う曲を決める際に「誰にでも伝わるようにしたいから、手話をいれたい。」

と子どもたちが考え、『Believe』に手話を付けて歌った。

○手話に興味を持ち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。

#### 〈児童感想 一部抜粋〉

○手話で話ができうれしかった。困っている人がいたら、まずは声をかけたい。

### （6）その他

○手話以外にも、盲導犬や点字等の体験も行ったことで、様々な視点で身の周りの人と関わろうとする姿につながった。

## 総合的な学習の時間 「手話体験」

川崎市立小倉小学校



### 単元（題材）目標

- 様々な障がいについて、自分と立場の異なる人々と関わったり一緒に学習したりすることで、互いを理解し合い尊重できる心を育てる。
- 活動から課題を見つけ、福祉の視点から小倉のまちを見直す。

### （1）実施時期

11月中旬

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 89名



### （3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年所属 4名

外部講師：手話サークル「太陽の会」7名



### （4）実施内容

#### ①講演会：聴覚障がいについて（学年全体）

- ・聴覚障がいの方がどんなことに困っているのか、話を聞く。（手話通訳あり）

#### ②手話体験：各学級で手話実践

- ・各学級に講師2名（聴覚障がいの方は1名）
- ・簡単な会話（あいさつなど）
- ・手話に関する基本的知識
- ・手話における拍手の仕方

#### ◎「今後の生活の中で、自分にどのようなことができるか」という視点で振り返る。

- ※相手がどんなことで悩んでいるのか、どんなことをしてほしいと思っているのか、考えていくことを意識して指導した。

### （5）成果〈生徒の感想などから〉

- これまで触れ合うことの少なかった聴覚障がい者や手話について、理解や興味を深めることができた。

#### 〈児童感想 一部抜粋〉

- これまで手話のことや聴覚障がいの人について何も知らなかったけど、今日の話聞いて苦労がわかった。もし、困っている人を見かけたら自分から声をかけていきたい。

## 総合的な学習の時間 「やさしい町 みやうち」

川崎市立宮内小学校



### 単元（題材）目標

- 福祉問題の解決や、よりよい福祉とは何かを考えるために取り組む。
- 様々な障がいについて理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる

### （1）実施時期

- ① 9月27日
- ②10月2日
- ③10月23日

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 児童34名  
小学校教員1名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年所属 1名、  
外部講師：①本校保護者（市内手話サークル所属）  
②川崎市聴覚障害者情報文化センター 職員2名

### （4）実施内容

- ①・聴覚障がいの原因や手話の種類について話を聞く。
  - ・手話体験（挨拶・自己紹介・声のかけ方等。）
- ②・センターを見学し、施設紹介のスライドを観る。
  - ・ろうの職員の方に、生活の中で困ることや、便利だと思うこと等をお聞きする。

### （5）成果

- 手話を使って、簡単な挨拶や自分の名前を相手に伝えられるようになった。
- ろうの方に直接お話を伺うことで、聴覚障がいについての理解を深めることができた。
- 学んだことを、いろいろな人に伝えたいという気持ちが高まった。

### （6）その他

- 11月の学習発表会で、学んだことを新聞にまとめて発表したり、実際に手話の体験コーナーを行ったりした。時間をかけて学習してきたものなので、児童も自信をもって取り組むことができた。

## 総合的な学習の時間 出前授業「手話体験学習」

川崎市立宮崎小学校



### 単元（題材）目標

○地域の人、もの、ことについての探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

### （1）実施時期

12月上旬

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 児童190名、 小学校教員5名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：手話サークル「手の花」6名

### （4）実施内容

- ①講演会：「聞こえないってどういうこと？」
  - ・学校名を手話で表す「宮崎小学校」
  - ・聾学校の説明（みんなの学校との違い、県内に4つだけ、通うのが大変 など）
  - ・聞こえなくなったのはいつか、出身校 など
  - ・日常生活の様子や災害時のお願い
- ②寸劇：ろう者が日常生活の中で困っていること、不便なこと
  - ・後ろから自転車が（ベルや声が聞こえません）
  - ・電車の中やホームで（アナウンスが聞こえないので不安）  
どうしたらよいのかを子どもたちに考えてもらう
- ③実演：聞こえない人とのコミュニケーション方法
  - ・口話                      ・身振り                      ・空書                      ・指文字
  - ・手話（あいさつ、拍手の仕方、教科）
- ④体験：コミュニケーション方法を体験する
  - ・様々な言葉を口話、身振り、空書で表現する
  - ・手話であいさつ
- ⑤質疑応答

### （5）成果

- 聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。
- 手話以外のコミュニケーションがあることを知り、さまざまなコミュニケーション方法で表現をすることができるようになった。
- 聴覚障がい者やコミュニケーションツールに対し、さらに興味を広げて調べ学習を進めるきっかけになった。

## 総合的な学習の時間 「みんなにやさしい町に」

川崎市立菅生小学校



### 単元（題材）目標

- 障がいのある方の生活に関心をもつ。
- 「バリアフリー」の概念を知る。
- 「みんなにやさしい町」のために、自分ができることを考えることができる。

### （1）実施時期

11月

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 児童 143名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

学級担任

特別支援級担任（手話ができる）

### （4）実施内容

- 国語科の「だれもが関わりあえるように」を学習後、点字体験、車いす操作体験、聴覚障がい体験や高齢者疑似体験をした。
- 手話ができる特別支援級担任が4年生に向けて手話を使ってビデオレターを作り、子どもたちが手話でのあいさつの仕方・指文字などについて知る機会になった。その後、神奈川県教育委員会から配付された「手話を楽しく学ぼう！」を使って自分の名前や簡単なあいさつを手話でできるように練習した。

### （5）成果

- 自分の町にもだれもが安心して暮らせるような工夫が福祉の視点からたくさんあることに気がつくことができた。
- 自分が手話を学ぶことで、聴覚障がいを持つ方ともコミュニケーションがとれることを知り、興味をもつことができた。



## 総合的な学習の時間 「福祉体験」

相模原市立田名北小学校



### 単元（題材）目標

○福祉体験学習で出会った方とのふれあいを通して人との接し方を学ぶとともに、他者への理解を深め、「みんなが幸せであること」「共に生きていくこと」を考えられるようにする。

#### （1）実施時期

平成30年10月29日（月）

#### （2）対象（学年等・人数）

第4学年児童：20名程度

\*聴覚障がいをもつ方からの講話における  
手話体験・要約筆記体験グループの児童  
担当教諭



#### （3）指導者（教諭・外部講師等）

ろうあのボランティアの方、通訳ボランティアの方  
社会福祉協議会の方

#### （4）実施内容

○ろうあの方から、日常生活の楽しみや工夫、困っていることなどのお話を聞く。

○簡単な手話「はい、いいえ、わかる、わからない」など簡単な日常会話と、先生の名前、自分の名前を手話でどのようにして表すのかを教わった。

○福祉体験では、他に

① 車いす体験・車いすで生活されている方からの講話

② 視覚障がいがある方からの講話、誘導・点字体験

③ 聴覚障がいがある方からの講話、手話体験・要約筆記体験 の3つのグループに分かれて体験活動を行った。

その後、体験したことをまとめ、感想を含めた報告会をワールドカフェ方式で行うことで、体験を共有することができた。

#### （5）成果

○手話を使ってすらすらと話をする姿、それを通訳して伝える姿を「すごい」と感じている児童が多かった。不自由で大変な生活をしているのではないかと想像していた子どもたちは、「私にとっては、これが普通です。」「大変だと思いません。幸せですよ。」と話してくださる講師の方々の言葉に、心を動かされている様子だった。

○耳の不自由の方が、生活のなかで使っている道具（きらきら光るインターフォン・振動で起こしてくれる目覚まし時計）などの話を聞き、さまざまな手立てを使って、工夫していることを理解することができた。

○今回の福祉体験以外にも、認知症サポーター講座や車いすバスケットなどの体験教室を行うことで、多面的な角度から福祉を考えることができた。

## 総合的な学習の時間 「福祉」

横須賀市立公郷小学校



### 単元（題材）目標

○耳の不自由な方の生活の困難さを知るとともに、コミュニケーションをとるための手だてとしての手話について学ぶ。

#### （１）実施時期

11月上旬

#### （２）対象（学年等・人数）

第4学年 97名、担任6名（含む支援級担任3名）

#### （３）指導者（教諭・外部講師等）

横須賀市聴覚障害協会と横須賀手話指導勉強会より2組（4名）

#### （４）実施内容

○2校時と3校時にクラス単位で実施（2校時目は、2クラス各2名の講師）

○健常者の方と聴覚障がいの方が一緒に教室に入り、どちらの方が聴覚障がいの方かわかるだろうかという質問を児童にする。また、聴覚障がいの方の困っていることなどについて、児童の質問に答えていただく形で学習が行われた。

- ・「音」や「声」を知らせる道具の話。
- ・手の言葉・・・身振り・口話・手話・筆談・空書・指文字などのコミュニケーションをとるための手立ての話。

○プリントを使用し、あいさつの手話を学んだ。

#### （５）成果〈生徒の感想などから〉

○聴覚障がいの方が、日常生活をより快適に過ごすための工夫について知ることができた。

○手話に興味を持ち、本やインターネットなどでも調べ、より詳しく知ることができた。

○調べた内容を生かして、児童会のお祭りの出し物にも活用した。

○学年全体として、二分の一成人式や6年生のお別れ集会でも手話を取り入れて発表をした。

#### （６）その他

○何度か教えていただく計画にすれば、もっと身につく学習になったと思う。

## 総合的な学習の時間 「手話教室」

横須賀市立北下浦小学校



### 単元（題材）目標

- 聴覚障がい及び聴覚障がい者について正しく理解し違いを知る。
- コミュニケーション方法を知る。あいさつの手話を学ぶ。

### （1）実施時期

「手話教室」 平成 30 年 9 月 27 日（木）  
「秋の読書祭り」平成 30 年 11 月 9 日（金）

### （2）対象（学年等・人数）

第 3 学年 42 名 小学校教員 2 名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 2 名  
横須賀ボランティアセンター職員 2 名



### （4）実施内容

#### ①聴覚障がいについて

- 「聞こえない人はどっち？」
- 講師の方 自己紹介（空書） ひらがな（講師）
- 見えない障がい……聴覚障がいは見てもわからない障がいであることに気づく
- 聞こえないと困ることは何？
  - ・いつも聞こえる音を意識して考える……チャイム・情報など
- 普段の生活の中で不便なことは何だろう？
  - ・講師の方の体験談を聞く

#### ②コミュニケーション方法を学ぼう

- ・口話／筆談／身振り／空書／手話／指文字
- ・ゲームを通してコミュニケーション方法を学ぶ……口型ゲーム・身ぶりゲーム

#### ③講師の方から

- ・お願い……災害や避難時・避難場所のできること

### （5）成果

- 手話を通じたコミュニケーションをとる方法を学ぶことで、自分の世界が広がることを知り、積極的にコミュニケーションをとろうとする意識の高まりにつながった。
- 毎年実施されている「秋の読書祭り」において、今回の学習で学んだこと、聴覚障がいの方とのコミュニケーション方法を紹介し、全校で手話を実践する等、コミュニケーションツールによる積極的なコミュニケーションの大切さや聴覚障がいについて学んだことを多くの人に広げるきっかけともなった。

### （6）その他

- 「読書祭り」は保護者の参観もあり、地域を豊かにする取り組みにもなってよかった。

## 総合的な学習の時間 「手話教室」

鎌倉市立大船小学校



### 単元（題材）目標

- 様々な障がいについて理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
- 人間一人ひとりが、かけがえのない存在であることを理解し、学級の活動に生かす。
- 手話に対する関心を高める。

### （1）実施時期

10月（2学期）

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 約90名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

本校そら組（難聴級）教諭

難聴級保護者 1名

### （4）実施内容

- ① 手話であいさつゲーム
- ② 「あいうえお」の5音指文字ゲーム
- ③ 誕生日順に並び替えジェスチャーゲーム
- ④ 聴覚障がいがあるとどうなるか？（質問形式）
- ⑤ 聴こえ方と補聴器について（質問形式）
- ⑥ 聴覚障がいのある方と関わる際に配慮してほしいこと

### （5）成果〈生徒の感想などから〉

- ゲームを通して手話を体験することで、手話によるコミュニケーションに親しみを持つことができた。
- 日常的に手話を用いて授業のはじめと終わりの挨拶をするなど、これまで以上に手話を身近に感じることができるようになった。
- 難聴級に在籍している児童の保護者から、聴覚障がいのある方の聴こえ方や関わる際に配慮してほしいことなど貴重な話をうかがうことができた。

## 総合的な学習の時間 「手話体験教室」

寒川町立一之宮小学校



### 単元（題材）目標

○聴覚障がいについて話を聞いたり交流したりすることを通して理解を深め、お互いに思いやり尊重しあう心を育てる。

### （1）実施時期

11月中旬

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 72名

小学校教員 3名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：寒川町社会福祉協議会 職員2名

聴覚障がい者協会 3名 菊和会 6名



### （4）実施内容

#### ①講演会：「聴覚障がいについて」（学年全体）

・聴覚障がいの方が困る場面について、児童にわかりやすいように寸劇を交えて話をいただいた。病院、避難所、宅配便の受取等具体的な生活場面で困ることについて、手話の他にどんな工夫をして生活しているかを理解した。（手話通訳あり）

#### ②手話体験：グループに分かれての手話の実践

・自分の名前、挨拶、喜怒哀楽、教科、食べ物など身近な物や事柄についての手話を教わった。

#### ③児童からのお礼

・地区音楽会に向けて練習していた合唱曲に手話を取り入れていたので、お礼に披露した。歌詞が伝わったことや喜んでいただいたことに、児童も自信がつき、音楽会でも力を発揮することができた。

### （5）成果

○劇を見たり話を聞いたりする中で聴覚障がいのある方々の困難さを知り、理解を深めることができた。

○手話に興味を持ち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。

#### 〈子どもたちの振り返りから〉

○ジェスチャーでも伝えられそうな手話もあったけど、難しい手話もあって、もっとたくさんの手話を知りたくなった。

○病院などで耳が不自由な人を見つけたら、肩をたたいてあげて教えてあげようと思った。

### （6）その他

○社会福祉協議会のご協力をいただき、点字体験、車いす体験も実施した。

## 総合的な学習の時間

### 「手話学習：みんなにやさしい町づくり～」

大和市立林間小学校



#### 単元（題材）目標

○「みんなにやさしい町づくり」

視覚障がい、肢体不自由、聴覚障がいなどがある方々について学び、様々な立場に立って私たちが暮らす町を見直すことで、だれにでもやさしい町づくりについて考える。

#### （1）実施時期

平成30年11月1日

#### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 5学級 171名

#### （3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：大和市聴覚障害者協会・大和市手話通訳者の会

#### （4）実施内容

○各学級で手話体験を行い、講話を聴く

\*各学級、聴覚障害者協会講師1名、手話通訳者1名

①簡単な手話に関する基本的知識を学び、あいさつや自分の名前、漢字の形などを手話で表現する。

②指文字による五十音の表し方を学ぶ。

③講師の生い立ちを通して、日々の思いや生き方を学ぶ。

④聴覚障がい者の方々の生活の様子を聞く中で、生活の工夫や生活の中で困難に感じることを知る。

⑤質疑

#### （5）成果

○手話という手段を使って、聴覚障がい者の方との会話を楽しみ、積極的にコミュニケーションをとりたいと思う態度を養うことができた。

○聴覚障がい者の立場から、私たちの身の回りの様子を見直し、だれもが生活しやすい社会を考えるきっかけを作ることができた。

○聴覚障がい者を支える様々な生活の工夫を知ることができた。また、4年生という立場でも自分にもできることがあるのではと、考えることができた。

○聴覚障がいを理由に様々な困難がある中でも、前向きに乗り越えようとする講師の話聞き、生き方についても考える機会となった。

#### （6）その他〈子どもたちの感想より〉

○自分の名前を教えてもらって、簡単にできた。楽しかった。

○手話はたくさん意味や種類があるということを知った。

○手話があれば、聞こえない人でもみんなとしゃべることができると分かった。

○耳の障がいがあっても、毎日が楽しそうだとわかった。

## 総合的な学習の時間 「ふくし教室・手話」

海老名市立杉本小学校



### 単元（題材）目標

○人を思いやる気持ちと、社会的にハンディキャップのある人と差別することなく接することができる心を育て、社会福祉をより身近に感じ、理解する。

### （1）実施時期

10月中旬実施

### （2）対象（学年等・人数）

第3学年 99名 小学校教員 3名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：社会福祉協議会より手話サークルの方々

### （4）実施内容

- ① 聴覚障がい者の方のお話を聞く。
  - ・聞こえないとはどういうことか
  - ・日常生活で不便なことは何か
- ② 手話体験をする。
  - ・ジェスチャーゲーム
  - ・伝言ゲーム
  - ・簡単な手話を学ぶ（挨拶・学校名等）
  - ・曲にあわせて手話を学ぶ

### （5）成果

- 手話ができなくても、身振り手振り、筆記などを通して意志疎通できることを理解し、伝えたい・わかりたいという気持ちが必要であることに気づくことができた。
- 相手を思いやるということはどういうことなのか、考えを深めることができた。
- 聴覚障がいのある方のために、どんな物が工夫されているのか（来客を伝えるランプ・テレビの字幕等）を知ることができた。

### （6）その他

- 手話に親しみ、学習後も手話を使う姿が見られた。
- 校外学習の際、街の中で聴覚障がいや視覚障がいのある方のための工夫を積極的に探す姿が見られた。

## 総合的な学習の時間 「手話体験」

綾瀬市立綾瀬小学校



### 単元（題材）目標

○講話や体験を通して、様々な障がいについて理解を深め、自分たちができることを考える。

### （1）実施時期

10月実施

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 4クラス 143名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：4名

外部講師：市内ボランティアサークル「あやの会」「聴覚障害者協会」



### （4）実施内容

○講話と手話体験

- ・聴覚障がいのある講師と聴覚障がいのないボランティアが並び、誰が聴覚障がい者であるかを問うことで、見た目では障がいがあることが分からないことに気づいた。
- ・また、手話の「おむすびころりん」を通して、聴覚障がい者が日常使用している器具を知り、生活での工夫を知ったり、聴覚障がい者と意思疎通を図ったりする方法を知った。

### （5）成果

- 子どもたちは、今回の手話教室を通して、聴覚障がい者の方と手話やジェスチャーなど様々な方法で意思疎通ができることを知った。また、手話体験を通して聴覚障がい者の方が、耳が不自由だけれど自分達と同じように生活していることに気づくことができた。このように、聴覚障がい者の方から直接話を聞くことで、本やインターネットだけでは分からなかったことに気付くことができた。また、手話を身近に感じることもできたようである。
- 聴覚障がい者の生活の仕方やその生活を支える道具について、実際に聴覚障がいの方から教えてもらうことができた。
- 児童の発達段階や学習内容を考慮して地域のボランティアサークルを活用することができた。



## 総合的な学習の時間 「ろう学校と交流しよう」

平塚市立富士見小学校



### 単元（題材）目標

- 交流を通して手話に関心をもち、耳の不自由な方々の生活について考える。
- 自分自身やすべての人の存在の大切さがわかる。

### （１）実施時期

1月下旬

### （２）対象（学年等・人数）

本校第3学年 109名      ろう学校第3学年 10名

### （３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭      : 第3学年所属 3名  
ろう学校教諭 : 第3学年所属 4名

### （４）実施内容

#### ①手話を用いてのフルーツバスケット

- ・「りんご」「みかん」「もも」「フルーツバスケット」の手話をろう学校児童から教えてもらう。
- ・ろう学校児童が各クラスに混ざって、一緒にフルーツバスケットを行う。

#### ②手話伝言ゲーム

- ・ろう学校児童が先頭になり、お題となる言葉の手話を伝えていく。各クラスの列の途中にも、ろう学校児童が入るようにした。
- ・「にわとり」「猿」「ピーマン」「馬」の手話がお題であった。

### （５）成果

- ゲームを通して手話を体験することができたので、興味をもって取り組むことができた。
- 学んだ手話が簡単な動きで表現しやすいものであったので、手話に親しみをもつことができた。
- ろう学校児童と、手話以外の方法（手のひらに文字を書くなど）でコミュニケーションをとろうとする姿も見られ、積極的に交流する様子があった。耳の不自由な方々の生活を理解するための一歩となった。

### （６）その他

- 交流の前に、図書室の本で手話について調べる活動も行った。

## 総合的な学習の時間 「手話について」

伊勢原市立大田小学校



### 単元（題材）目標

- 耳が不自由な人々の生活を知り、手話に興味を持つ。
- 簡単なあいさつや指文字について知る。

### （1）実施時期

1学期（6～7月）

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年（4年1組） 30名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

担任 1名

### （4）実施内容

- 耳の不自由な人々の生活がどのようなものであるか考え、話し合う。
- 聴覚障がいについての本の読み聞かせを聞く。
- ろう学校の生活の写真を見る。
- 手話での簡単なあいさつについて学ぶ。
- 指文字について知り、指文字表を作る。
- 自分たちが学んだこと、これからできることについて振り返る。



### （5）成果

- 自分たちと同じ年齢の子のろう学校での生活の写真を見ることで、より身近なこととして捉えることができた。
- 手話に興味を持ち、あいさつや指文字などを使いたいという意欲を持つことができた。
- 聴覚障がいの方々の方々の生活について知り、自分たちがどのように関わっていけば良いかを考えることができた。

### （6）その他

- 児童は他にも車いす体験やアイマスク体験などを通して、バリアフリーについて考える活動に取り組んでいる。

## 総合的な学習の時間 「手話で歌おう『福祉体験』」

二宮町立一色小学校



### 単元（題材）目標

- ① 入学式：在校生からの歌のプレゼント『世界中のこどもたちが』
- ② 9月：今月の歌『切手のないおくりもの』
- ③ 10月：今月の歌『音楽のおくりもの』
- ④ 校内音楽会：全校合唱『音楽のおくりもの』
- ⑤ 4年生総合的な学習の時間：『福祉体験』高齢者や障がいのある方への理解と共に生きることを考える。
- ⑥ 1月：今月の歌『Believe』

### （1）実施時期

- ① 4月      ② 9月      ③・④ 10月      ⑤ 10月～11月      ⑥ 1月

### （2）対象（学年等・人数）

- ① 第1学年 21名、第6学年 36名
- ②・③・④ 全校児童 208名
- ⑤ 第4学年 34名
- ⑥ 第5学年 56名、第6学年 36名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

- ①・②・⑥ 音楽部（教諭）
- ③・④ 音楽部（教諭） ステージ上での本部委員会指導（教諭）
- ⑤ 担任（教諭）

### （4）実施内容

- ① 在校生から新入生への歌のプレゼントとして6年生が『世界中のこどもたちが』を選び、入学式後に新1年生をはじめ入学式の参列者に披露した。
- ② 今月の歌として『切手のないおくりもの』『音楽のおくりもの』『Believe』を選び、全校集会の場や各クラスで、手話付きで歌った。（③④⑥も同じ）
- ③ 白杖体験、点字体験などと共に、手話についても興味をもった児童のグループが調べ学習を行った。学習発表会において、手話コーナーを設け、4年生から全校児童・保護者に向け手話の取り組みを発信した。

### （5）成果

- ① 6年生は下学年からの取り組みなので、1～2回の練習でできるようになっていた。
- ② 教室で毎日歌うことで、歌詞の手話は全校児童ができるようになった。（③④⑥共に）。
- ⑤ 今月の歌でも取り扱ったので、親しみがあり、積極的に手話での自己紹介など数種類のやり取りを学び、実践していた。

## 総合的な学習の時間 「だれもが関わり合えるように」

箱根町立箱根の森小学校



### 単元（題材）目標

- 様々な障がいについて理解を深め、お互いを理解し尊重できる心を育てる。
- 自分が関心をもったことから課題を設定し、本やインターネットなどで調べることができる。
- 体験したことや調べたことを、箱根町の観光に結びつけて考えることができる。

### （1）実施時期

9月中旬から12月中旬

### （2）対象（学年等・人数）

第4学年 35名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年所属1名、森の子級所属1名

外部講師：「点字サークルはこね」7名、「手話サークルドリーム」2名

### （4）実施内容

#### ①オリエンテーション

- ・視覚障がい、聴覚障がい、高齢者などいろいろな立場の人たちについて知っていることを出し合う。

#### ②視覚障がいについて学習する

- ・点字や点字ブロック、視覚障がい者のために工夫されていることなどについて調べる。
- ・点字体験（読み・書き）
- ・アイマスク体験
- ・目の不自由な方からお話を聞く。

#### ③聴覚障がいについて学習する。

- ・耳の不自由な人について
- ・耳の不自由な人とのコミュニケーションの方法
- ・手話であいさつ
- ・指文字で自己紹介

#### ④学習したことを、箱根町の観光に結びつけて考える。

#### ⑤まとめ

### （5）成果

- 視覚障がいや聴覚障がいの方に対する理解を深めることができた。
- 授業の終わりの挨拶を手話で行ったとき、「音がない」というつぶやきが子供たちから出たように、実際に体験したり、お話を聞いたりすることにより、本やインターネットで調べたことが実感を伴ったものになった。

### （6）その他

- 毎月1回、全校で実施している音楽朝会では、県の手話月間に合わせて5月は手話ソングを歌うようにしている。毎年継続していることで、児童に、手話に対する親しみが出てきている。

## 特別活動（児童会活動） 「手話に親しもう」

川崎市立西梶ヶ谷小学校



### 単元（題材）目標

○音楽委員会の呼びかけにより、音楽朝会で、「世界が一つになるまで」のサビの部分を手話で歌う。

### （1）実施時期

12月～1月

### （2）対象（学年等・人数）

全校児童 児童 597名（うち、音楽委員会 12名）

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

音楽専科教員及び第5学年担任

### （4）実施内容

- ①音楽委員会で、「世界が一つになるまで」が手話でできることを知る。
- ②今月の歌で朝会で歌うために、全校にお知らせビデオを作る。
- ③1年生に手話を教えに行く。
- ④音楽委員会は、中休みに動画を見て練習する。
- ⑤高学年は音楽の時間に少し歌ってみる。
- ⑥音楽朝会で、音楽委員が、前に出てお手本になりながら、全校で歌と手話に取り組む。

### （5）成果

○全校で手話に取り組むことができたのがよかった。また、手話に興味をもってくれた児童もいた。その場だけの取り組みではなく、もう少し時間をとってじっくり広げていってもよかった。

## 特別活動（児童会活動） 「手話で歌おう、心一つに」

川崎市立西野川小学校



### 単元（題材）目標

- 全校児童が手話に親しみ、手話が言語であることを意識し、心を込めて手話で歌う。
- 手話に興味をもつとともに様々なコミュニケーション手段があることあり、それを活用して豊かな人間となる一助とする。
- 人とのふれあいを積極的に深め、交流の輪を広げていこうとする態度を育てる。
- 違いを認め受容する態度を養い、共生の心を育成する。

### （1）実施時期

7月中旬

\*音楽集会（年間3回）や朝会など、機会あるごとに歌っている。

### （2）対象（学年等・人数）

全校児童 385名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 全員

### （4）実施内容

- 音楽委員会の児童が、全校児童の前で手話を披露するために熱心に活動した。  
また、ビデオ撮影により学校放送を利用し、手話の方法などを学ぶ機会とした。
- 委員会の児童が各クラスに指導に行き、さらに理解が深まった活動となった。

### （5）成果

- 来年度の開校40周年を意識した音楽委員会の集会活動の一環として実施したが、個性の差、一人として同じ人はいないことを理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ時間となった。
- 誰もが安心して生活できる権利を理解し、誰もが共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを理解したことで、温かい気持ちで接することができる児童の育成を図ることができた。

## 課外活動 夏休みわくわく体験

秦野市立鶴巻小学校



### 活動目標

- 手話に興味を持ち、手話表現に親しむ。
- 手話の意味を知り、簡単な手話表現をおぼえ、会話する。

### (1) 実施時期

7月26日(木)

### (2) 対象(学年等・人数)

第3学年～第6学年の希望者 23名

(第3学年7名・第4学年4名・第5学年4名・第6学年8名)

### (3) 指導者(教諭・外部講師等)

教諭 2名

### (4) 実施内容

- ①あいさつ・先生紹介
- ②手話ってなあに?……聞こえない・話せない人の表現手段。  
神奈川県は条例で言語として認めている。
- ③手話がわかると何が変わるの?…手話を使っている人とコミュニケーションがとれる。  
最初だけ手話で、あとは筆談やジェスチャーでもOK。  
話してみようという気になれる。
- ④かんたんな手話で、あいさつしてみよう……あいさつ・気持ちの表し方の表現
- ⑤指文字五十音・数字の表し方をやってみよう……自己紹介・誕生日・年齢
- ⑥友達と会話してみよう……すき・きらい・教科・季節・家族
- ⑦知っておいてほしいこと……耳が聞こえない人が困ること
- ⑧手話ソングを歌おう……小さな世界
- ⑨関連紹介……手話パフォーマーの紹介「HAND SIGN」  
(平塚出身の手話でダンスパフォーマンスをするユニット)  
聴覚障がいを題材にした漫画「聲の形」

### (5) 成果

- 今年で3年目となり、2度目の参加の子もいて、手話を楽しみながら学んでいた。  
手話単語を組み合わせる簡単な会話を楽しんだ。その後廊下で出会うと手話であいさつを交わす子もいる。

**単元（題材）目標**

○障がいについての理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。

**（１）実施時期**

5月中旬

**（２）対象（学年等・人数）**

第1学年 235名（\*本校では、毎年第1学年が、この学習を行っている）

**（３）指導者（教諭・外部講師等）**

本校教諭 第1学年担任（各学級にて実施）

**（４）実施内容**

- ①導入 本校技能吏員さんの紹介を行い、本時の学習の目的を説明する。
- ②VTR『手話ってすごい』視聴  
ワークシートの記入を行う。  
内容・どのようにして音を覚えるのか。
  - ・どのような時に困るのか。
  - ・どのような工夫をして生活しているのか等。
- ③手話体験（班で活動）
  - ・手話や指文字のプリントを参考にし、あいさつを試みる。
  - ・指文字で自分の名前を伝えてみる。
- ④まとめ  
VTRや本時の活動を通して学んだ事をワークシートに記入する。

**（５）成果〈子どもの学び〉**

- 耳の不自由な人がどのような時に困り、どのような工夫をして生活をしているのかを知ることができた。
- 本校技能吏員さんとの関わり方について知り、今後実践しようという意欲をもった。
- 「わかりたい」「伝えたい」という気持ちが大切で、お互いその気持ちになることが必要であることを学んだ。
- 後日、技能吏員さんに手話でコミュニケーションをとっている生徒を見かけた。小学校の副校長先生がよく朝会等で手話をしていて、今回の授業でそれも思い出したとのことだった。

**（６）その他〈子どもの感想〉**

- 「目」だけを頼りに、言葉、動き、音を理解するのは、とても難しいだろうなと思いました。その上で、身の周りにそういった人がいたら力を貸してあげたいと思いました。
- 簡単な手話からおぼえて、手話を使えるようになりたいです。
- 伝えたい気持ちが強ければ相手につたわるのかなと思いました。
- 手話って楽しそうだった。いつか手話を使って会話してみたい。
- 障がいのない人よりもすごい努力をしているのだと思った。



## 総合的な学習の時間 「手話体験」

相模原市立鳥屋中学校



### 単元（題材）目標

- 福祉に関する種々の活動を通じて、福祉への関心を高める。
- 福祉を身近なものとしてとらえ、行動しようとする意識を育てる。
- 障がいがある方の講話を通して、障がいに対しての理解を深め、共生の心を育てる。

### (1) 実施時期

平成 30 年 9 月 25 日（火）

### (2) 対象（学年等・人数）

第 1 学年 17 名

学年職員 2 名



### (3) 指導者（教諭・外部講師等）

社会福祉協議会の協力

- ・手話ボランティアの方 2 名
- ・要約筆記ボランティアの方 3 名



### (4) 実施内容

#### ○手話体験

- ・講師による手話の意義について学ぶ。
- ・講師の方から簡単な挨拶（こんにちは、ありがとう等）について学ぶ。
- ・手話の体験（自分の名前と簡単な自己紹介など）を行う。

#### ○要約筆記体験

- ・要約筆記とは何かについて学ぶ。
- ・講師の方に要約筆記を実演してもらう。（書画カメラを使用し、大型テレビに投影。）
- ・実際に要約筆記を行う。

### (5) 成果

- コミュニケーションツールとしての手話体験や要約筆記を通して、障がいのある方や福祉について理解を深めることができた。
- 手話に興味を持ち、簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。

#### <生徒の感想>

福祉は相手の立場に立って考えることが重要で、単に助けることだけではないことがわかった。

### (6) その他

- 学校祭文化の部において、学んだことを全体で発表した。

## 総合的な学習 「聴覚障がい者の理解」

相模原市立北相中学校



### 単元（題材）目標

- 実際に障がいを体験したり、当事者の体験談を聞いたりすることにより、相手の気持ちを考え、その人にとって何が「やさしさ」なのかを考えて生活することの大切さに気付かせる。

### （1）実施時期

平成31年2月26日（火）

### （2）対象（学年等・人数）

第1学年 26名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

社会福祉協議会の協力  
地域手話クラブのボランティアの方々  
ろう・難聴のボランティアの方



### （4）実施内容

- 手話体験  
「聴覚障がい者の理解について」の講話と、多様なコミュニケーション方法や手話で行う簡単な挨拶、自分の名前について学ぶ。
- 要約筆記体験  
話した言葉を伝えるために、要点を絞って素早く書く方法を学ぶ。

### （5）成果

- 実際に街で助けを求められたときに、どんな方法で相手に伝えることができるのかを直接講師の方にお聞きし、理解を深めることができた。
- 「わかる・わからない」「同じ・ちがう」「もう一度お願いします」「ありがとう」といった手話を覚えることができた。

《生徒の感想から》

- 手話や筆談以外にも、空書きや指さし、指文字があることを知ることができました。何より、相手に伝えようとする気持ちが大事だとわかりました。

### （6）その他

- 学校ホームページや学校だよりで活動の紹介を行った。

## 総合的な学習の時間 「福祉体験（手話体験）」

横須賀市立久里浜中学校



### 単元（題材）目標

- 地域における福祉の在り方を学び、福祉と自分のつながりを考え、まとめの活動を通して自分の考えを整理し、それを他者へ伝える力を養う。

### （１）実施時期

平成30年11月9日（金）



### （２）対象（学年等・人数）

第1学年 76名、 中学校教員 1名

### （３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第1学年担当1名

外部講師：耳が聞こえない方1名、健聴者1名



### （４）実施内容

- 全く周りの音が聞こえないことで困ること、便利なもの
- 社会で共生するために…手話や筆談などコミュニケーションでの手立て
- 手話に挑戦

### （５）成果

- 「目の前にいる人が、耳が聞こえないかどうかは、見た目だけでは判断できない。」講義の最初にその点に気づかされた。コミュニケーションの方法や手話の体験など、とても勉強になった。今後、耳が聞こえない人と出会ったときに、この学びをいかしていきたいとの感想も出た。

〈生徒感想 一部抜粋〉

- ・耳が聞こえない人が話す手段は手話だけだと思っていましたが、他にも口話や筆談などの手段があることを知ることが出来ました。
- ・自分が口話で「スキー」といったはずが「すし」「くし」などの答えが返ってきて、自分が思っている以上に聞こえづらいことなんだと感じました。

### （６）その他

- 外部講師の方々に、わかりやすく楽しい講義をしていただいた。また、便利なものなどの実物を見せていただき、生徒は親近感を持って学ぶことができた。
- 資料も、日常使える手話など興味を持てる内容を用意していただいた。

## 総合的な学習の時間 「福祉体験学習」手話

藤沢市立湘洋中学校



### 単元（題材）目標

- 社会には、いろいろな状況や立場に違いのある人がいることを知り、特に障がいのある人についての理解を深める。
- 支援が必要な人に対し、自分が現在できること、また将来できそうなことを考えるきっかけとする。

### (1) 実施時期 通年

平成30年6月25日（月）

\*毎年6月頃に、第2学年の総合的な学習の時間において福祉体験学習を実施している。



### (2) 対象（学年等・人数）

第2学年 選択生徒 80名

### (3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 1名（1学年所属）外部講師 2名（聴覚障がいの方、通訳の方）

### (4) 実施内容

#### ① 講師による講話

- 「聴こえない」障がいについて
- コミュニケーションについて考える
- 体験談⇒ 中途失聴～障がいを受け入れ手話を獲得するまで

#### ② 手話の体験

- 〈伝える、読み取る〉体験 ⇒ 口話、読話（読唇）、ジェスチャー
- 挨拶、指文字、名前の手話表現（自己紹介）
- 手話ソング「ドレミの歌」



### (5) 成果

- 講師の方は中途失聴のため、聴こえていた時からしだいに聴力を失っていく過程を直接話していただき、それを受け入れる心と生活の大変さをよく理解できた。
- 特に手話ソングを通して、興味をもち手話表現することの楽しさを深められた。
- 講座のあと、掲示した指文字表を見ながら覚えて使おうとする生徒が増えた。

### (6) その他

- 継続して手話学習を取り入れ、音楽の授業で手話合唱に学年で取り組んでみたい。

#### 〈生徒の感想～抜粋〉

- 手話の体験をしてわかったことは「人に何かを伝える時は大げさにやり、しっかり相手に伝えるぞ！という気持ちを持つ」ということです。私が生活をする中で、普段何も考えずに電車に乗ったりしますが、これからは周りを気にしながら公共の場を使い、何か困っている人を見かけたら声をかけてみようと思いました。

## 総合的な学習の時間 福祉体験学習「手話教室」

開成町立文命中学校



### 単元（題材）目標

- 地域の福祉活動への関心と理解を深め、自らの人間形成を図り、共に手を携えて心豊かに生きる精神を養う。
- 体験的な学習を通して自己の生き方を考えとともに、積極的に福祉活動に参加できる意欲を高める。

### （1）実施時期

平成 30 年 2 月 21 日（水）

### （2）対象（学年等・人数）

第 1 学年 全学級 171 名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

手話サークル「かたつむり」



### （4）実施内容

- 手話の基礎知識
- 簡単な会話（あいさつ、自分の名前、感情表現等）
- 指文字による五十音の表し方
- 歌に合わせて手話

### （5）成果

- 9月に実施した難聴理解教室に引き続き、コミュニケーションツールとしての手話体験は、聴覚障がいに対する理解をさらに深めることができた。
- 手話に興味を持ち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。

#### 〈生徒感想 一部抜粋〉

- 手話は、聴覚障がいの方同士のためだけではなく、みんなが知ることでコミュニケーションをとれるようになる。お互いが理解し合うために必要なものだと思う。

### （6）その他

- 3年生においては、文化祭の学年合唱に手話を取り入れた発表を行った。  
(練習時に手話団体の方を講師に招いた)

## 特別活動（生徒会活動） 福祉体験「手話講座」

横浜市立笹下中学校



### 単元（題材）目標

- 地域で誰もが過ごしやすいするために、聴覚障がいについて理解しながら、コミュニケーション方法を学び、伝えようとする気持ちを育む。

### （1）実施時期

平成 30 年 11 月 28 日（水）

### （2）対象（学年等・人数）

37 名（福祉厚生委員：第 1 学年 10 名 第 2 学年 14 名 第 3 学年 14 名 職員 3 名）

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 3 名

外部講師 1 名（港南区聴覚障害者協会）

アシスタント 2 名（手話サークル）

港南区社会福祉協議会職員 1 名 \*名前をカット

### （4）実施内容

#### ①講演会「聴覚障がい理解」

- ・「音がない世界とは」音が聞こえないこと。なぜ聞こえないのか。

#### ②「聞こえない」体験

- ・生徒自身が聞こえない役として、講師の口形を読み取る。

#### ③手話体験

- ・簡単な日常会話の手話を学ぶ。

#### ④講師と会話

- ・聞こえない人との会話を体験する。
- ・手話、指文字、筆談、空書、身振り、絵描き、口話を使って会話を体験する。

### （5）成果〈生徒の感想などから〉

- 講師の話から、聴覚障害者が困っていることは何か、そして何を求めているかを知った。
- 「物事を知る・話す・聞く」は日常で必要なことである。
- 『手話はいのち』とは、聴覚障がい者にとって「目で見える会話・情報」がどんなに大切かということがわかった。
- 災害時の対応について  
見てわかるように表示する等、緊急時の伝え方やインフォメーション方法の工夫を知った。

### （6）その他

- 昨年は高齢者疑似体験をした。今後も様々な障がいについて理解を深めたい。

## 特別活動（生徒会活動） できることを「今」やろう

川崎市立南大師中学校



### 単元（題材）目標

○手話に興味関心をもつ。

福祉委員会では、これまでに行ってきたボランティアの他に、自分達で考えた企画を実践していく自主的活動を推進しています。

（１）実施時期 通年

（２）対象（学年等・人数）

福祉委員 22名 全校生徒 361名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 1名

経験のある福祉委員の生徒 6名

（４）実施内容

① 4月：新入生歓迎会

福祉委員長が、手話を使って自己紹介をしてから委員会紹介を行った。

人の話は「目で見て、耳を傾けて、体ごと話し手の方を向いて聞くものだ」という考えから実施した。

② 5月：専門委員会

毎月行われる委員会の中で、手話の講習会を行った。クラスへ伝達するために、昨年度に経験のある先輩達が後輩へ教えながら活動をした。それを各委員がクラスに持ち帰り、翌日の委員会報告で一緒に手話や指文字を体験した。

③ 生徒集会

朝礼前に行われる、生徒集会内で各委員会の委員長が活動報告をする場面がある。

その中で、福祉委員長が手話に関する説明をし、教員が手話で同時通訳をした。顔をあげて話を聞くことをねらいとし、さらに手話に興味関心をもてるように同時通訳形式にすることを、生徒からの企画提案で実施した。

（５）成果

福祉委員会では、継続的な活動のほかに、自分達で考えた企画を実施できるよう年間計画を作成している。昨年度、これまでユニセフの街頭募金を継続してきたことで全校表彰を受け、図書カードを贈呈された。その使い道を尋ねたところ、手話の本がほしいというアイデアがあがった。昼休みに「〇〇という手話はこうやるんだよ」と担任に話しかけてくる生徒がいるという話を聞くと、興味関心をもってきている生徒が少しずつ増えていると感じる。

## 特別活動（学級活動） 「人権福祉講演会」

相模原市立内郷中学校



### 活動目標

- 偏見や差別を許さない心と態度を持ち、命を大切にする生徒の育成をめざす。
- 実際に自分たちが障がいを体験し、障がいを持った方々の体験談を聞くことにより相手の気持ちを考え、その人にとって何が「やさしさ」なのかを考えて生活することの大切さに気づかせる。

### （1）実施時期

平成 30 年 1 月 12 日（金）

### （2）対象（学年等・人数）

本校全学年生徒 77 名  
教職員 12 名

### （3）指導者（教諭・外部講師等）

神奈川県聴覚障害者協会の方 他 9 名



### （4）実施内容

- ① 講演会：「障がってなんだろう？」（全学年を 2 つのグループに分ける）
  - ・ 障がいの特性の話や体験談を聞き、手話の意義、手話に関する基本的知識などを学び、障がいのある方への理解を深める。
- ② 手話体験
  - ・ 指文字による五十音の表し方
  - ・ 簡単なあいさつ、日常の言葉など

### （5）成果

- 講演会を実施することにより、障がいのある方への理解を深めることができた。
- ただ手話を暗記するのではなく、障がいのある方とコミュニケーションがしっかりとれることが大切なことを学ぶことができた。
- 障がいのある方とコミュニケーションをとる勇気を備える学習とすることができた。

### （6）その他

- 学校ホームページなどを活用し、活動の紹介を行った。
- 聴覚障がいのほかに、視覚障がいについても学習した。
- 保護者にも案内の通知を配付した。



## 特別活動（学級活動） 福祉講話「手話」

大和市立光丘中学校



### 単元（題材）目標

聴覚に障がいのある方の話を聞き、障がいのある方の気持ちに寄り添い理解し、共生の心を育て、思いやりを持って接しようとする態度・行動を育成する。

(1) 実施時期 3月初旬

(2) 対象（学年等・人数）

第3学年生徒 301名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第3学年所属 15名

外部講師：大和市聴覚障害者協会 8名

大和市手話通訳者の会 8名



(4) 実施内容

①委員会の生徒による講師案内

・福祉委員の生徒が講師を会場へ案内し、コミュニケーションを図った。

②手話体験：各学級で講話・手話実践

・各学級を聴覚障害者協会講師1名、手話通訳者1名が講師として担当していただいた。

・簡単な手話の講演を受け、手話に関する基本的知識を学び、その後実際にあいさつや自分の名前、漢字の形などの手話を体験した。

・指文字による五十音の表し方を学び、実際に体験した。

☆手話を使うときは、言葉を言いながら手話をするように指導した。

(5) 成果

○生徒は、手話や指文字の存在は知っていたが、実際に講話で手話を体験することで、聴覚障がい者に対する理解をより深めることができた。

○音声以外のコミュニケーション手段により、聴覚障がい者との接し方について理解を深めることができた。

○生徒の感想として「あいさつや名前の伝え方を知ることができた。」や、「英語や他の言語のようにコミュニケーションをとる手段だと感じた。」などがあつた。

(6) その他

○毎年、卒業期に開催することによって、3年間の福祉に関する学習の振り返りとなり、講話を聞き、より深く理解することができた。

## 部活動（合唱部）

藤沢市立湘洋中学校



### 活動目標

- 社会には、いろいろな状況や立場に違いのある人がいることを知り、特に障がいのある人についての理解を深める。
- 支援が必要な人に対し、自分が現在できること、また将来できそうなことを考えるきっかけとする。

(1) 実施時期 通年 \*2010年度より継続中

### (2) 対象（学年等・人数）

合唱部員（第1学年～第3学年） 50名

### (3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 1名

外部講師 1名（聴覚障がいの方）



### (4) 実施内容

- ①挨拶、自己紹介、指文字など基本的な手話表現の学習。
- ②歌詞の手話表現の工夫～単語そのものを直接訳すのではなく、歌詞のフレーズが何を訴えているのかを考え、他者に伝える工夫をする。
- ③手話表現と共に合唱する曲を、演奏会で必ず数曲取り入れている。

### (5) 成果

- 講師より、中途失聴の悲しみと聴こえない障がいについて実体験を直接うかがい、その理解を深めた。また、日々の生活に大変なことはあるが、それを前向きにとらえ、たとえ聴こえなくても歌を手話表現することで、聴こえないことや手話表現の素晴らしさを伝える活動をしている講師の姿に触れ、人に伝えることの大切さを深く学べた。
- 手話表現を学んだことにより、福祉関係の進路を選択する部員がいる。
- 部員自ら、様々な歌の手話表現を考えられるようになってきている。
- 手話表現と共に演奏することにより、他者に感動を与えることができた。
- 手話表現を学ぶことで、どの曲も歌詞への理解を深めようとする気持ちが深まり、表現することの楽しさもより味わえるようになってきている。

### (6) その他

- 手話表現と共に合唱をすることはとても難しいが、部員たちはよく取り組んでいる。
- 機会を見て手話技能検定を受けさせてみたい。



## 課外活動 「地域ふれあい講座」

茅ヶ崎市立松浪中学校



### 活動目標

○本校の学校目標の一つである「地域に貢献できる人になろう」の達成を目指し、地域との「ふれあい」や「つながり」の場を大切にできる生徒の育成を図るため、地域の方に講師を依頼し、生徒と地域の方々のふれあいの場を設けています。地域ふれあい講座「手話」では、地域の方に講師として来ていただき、ふれあいながら手話の基礎的な知識を身につけることを目標としています。

### (1) 実施時期

平成30年11月17日(土)

### (2) 対象(学年等・人数)

第1学年 5名、第3学年 5名、計 10名

### (3) 指導者(教諭・外部講師等)

外部講師：1名(地域の方)

### (4) 実施内容

○講師の方から聴覚障がいや手話の歴史についてのお話を伺い、その後手話の体験を行いました。具体的には、

- ・手話による挨拶を学ぶ
- ・指文字による自己紹介を学ぶ
- ・手話の動きと動きの成り立ちを学ぶ
- ・歌の歌詞に合わせて手話を行い、手話を覚える
- ・今回覚えた手話を用いて隣同士でコミュニケーションをとる

等の活動を行いました。

### (5) 成果

○地域の方々のご協力により、日常では学ぶ機会の少ない事柄について教えていただき、有意義な時間を過ごすことができました。

○生徒は、興味を持って手話講座の内容に耳を傾け、手話の基礎を学ぶことができました。手話講座を通して、具体的な手話を身に付けることで、生徒同士が手話によるやり取りができるようになり、心のつながりを実感できました。

